

2. 対馬市の地域福祉の現状と課題

～支所ワーキングまとめより～

厳原支所ワーキング部会

ワーキング部会開催回数：3回

調査方法：アンケート調査

調査期間 平成20年2月～3月

調査方法 民生委員による配布・回収、郵送配布・回収

調査対象者

分類	配布数	回収数	回収率	調査方法
一般市民	294	294	100%	民生委員による配布・回収(本人記入方式)
高齢者	197	197	100%	
障害者(精神・知的)	88	88	100%	
母子・父子	61	61	100%	
法人会員等	58	43	74%	郵送配布・回収
NPO法人・ボランティアグループ	14	9	64%	
社会福祉関連施設	7	5	83%	
合計	719	697	97%	

その他 アンケート調査実施に向けて、民生委員説明会を4回実施

(まとめ)

・地域生活を安心して、豊かに過ごすためには、医療・保健・福祉サービスなど生活に密着した情報が大切になるが、地域には様々な暮らしをしている方がいるので、多くの人が情報を手に入れやすい方法を考える必要がある。

・「欲しい情報が手に入らない」、「いざという時にどこに相談していいのかわからない」といったケースが見受けられるので、情報を必要とする人のニーズに合った方法を整備する必要がある。また、年齢や障がいに関わらず、支援を必要とする方々が困っているところを見かけた際の声かけなど、心のバリアを感じることはないような、誰にでも優しい地域社会をつくる。

・低所得者の生活支援対策が必要

・地域には、さまざまな団体(社協、町内自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ・NPOなど)があるが、個々のつながりが薄く、地域福祉について一緒に考える場がない。

・年齢を問わず、閉じこもりがちな人を対象としたサロンに加え、さらに気軽に参加できるサロン活動を推進していただき、気軽に集まれる場づくり、井戸端会議的な場づくりが必要である。

美津島支所ワーキング部会

ワーキング部会開催回数：1回(モデル事業では5回)

調査方法：アンケート調査・当事者等組織懇談会・住民懇談会

調査期間 平成18年8月～10月

調査方法

アンケート調査：民生委員による配布・回収(270部配布・269部回収)

当事者組織等懇談会(3団体)、住民懇談会(3地区・124名)

調査対象者

アンケート調査：一般市民、住民懇談会：3地区(鶏知・今里・小船越)

当事者組織等懇談会：民児協・老人クラブ・一人暮らしの会

(まとめ)

* アンケートより

- ・ 合併により、市民の声が行政に届きにくくなった。
- ・ 子どもの遊び場の確保
- ・ 健康づくりの推進（介護予防）
- ・ 経験・趣味・資格を活かす場の提供
- ・ 各種団体の組織強化
- ・ 福祉サービスの充実及び格差の是正
- ・ 公共施設の有効利用
- ・ 公衆マナーの悪さが目立つモラルの再認識
- ・ 若年・高齢者雇用対策
- ・ 災害・緊急時の情報網整備
- ・ 若年層の島外流出による人口減少
- ・ 地域の産業振興（地産地消の推進）
- ・ 医療問題・高齢者の医療費の負担増（専門医不足）
- ・ 地域での人材育成（リーダーの確保）ができていない
- ・ 住民相互の地域での声かけ・見守り（ネットワーク）活動の推進
- ・ 家庭・社会教育の重視（しつけ・あいさつ）
- ・ 福祉サービスの利用に関する上限枠の再検討
- ・ 交番廃止に伴う防犯機能の低下
- ・ 余暇・ゆとりがない（趣味ができない）
- ・ 学校教育の問題（いじめ・健全育成）
- ・ 生涯学習の場の充実（伝統文化の継承）
- ・ 社協活動の PR
- ・ 環境汚染・美化（道路沿いの空き缶）
- ・ 子育て支援対策の強化
- ・ 地域の行事やイベントの減少
- ・ 交通手段・交通網の整備

* 住民懇談会より

- ・ 福祉についての知識がなく、サービス利用などの手続きがわからない
- ・ 最近、子どもに対するしつけのあり方に疑問を感じる
- ・ 子どもの遊び場に設置されている老朽化した遊具の整備を
- ・ チャイルドシートの貸付の在り方について
- ・ 道路沿いなどに空き缶・ゴミの投げ捨て
- ・ 通学路のトンネル付近に、犯罪防止と安全の観点から出入り口に防犯灯を
- ・ 公衆マナーの悪さが目立つ
- ・ 雇用の場が少ない
- ・ ふれあいサロンの拡張
- ・ ボランティアの推進が重要

- ・心の病は、地域内の人に理解してもらいにくい
- ・日常の安否確認や緊急時の対応として独居老人の支援体制づくりを
- ・各種団体の育成・強化

豊玉地区ワーキング部会

ワーキング部会開催回数：3回

調査方法：アンケート調査

調査期間 平成20年2月~3月

調査方法 アンケート調査（ワーキング部会委員が中心に配布・回収）

調査対象者

分類	配布数	回収数	回収率	調査方法
地域市民	102	102	100%	民生委員による配布・回収
商工会青年部	22	18	82%	商工会青年部長が配布・回収
一人暮らし高齢者	20	20	100%	地域包括支援センター職員が配布・回収
介護サービス利用者	20	18	90%	施設職員が配布・回収
豊玉高等学校高校生	93	93	100%	高校の担当教諭が配布・回収
合計	257	251	97%	

まとめ

- ・町によって社協のイメージが違う
- ・ボランティアセンターの認知度が低い。ボランティアの推進をする必要性がある。
- ・社協だよりの認知度が高い。
- ・元気な高齢者は自分のことは自分ですという意識が高い。
- ・「団魂の世代」が将来の「地域力」になるのでは。
- ・アンケート調査より、必要な年代に必要な事業を周知できていたのでは。
- ・地域福祉活動計画は、地域住民やボランティア団体、民間団体の福祉活動を中心とした自主的な行動計画であることから、その計画作りに、さまざまな組織、機関の方々の協力を得ながら福祉ニーズの把握ができたことはとても画期的なことである。作業をする過程において、多くの福祉課題も見えてきた。今後は対馬市として全体的に重要な課題の整理に取り組みされる予定ですが、地域で何ができるかを皆が知恵を出し合い、真の行動計画としての地域福祉活動計画が策定されることを期待します。

峰支所ワーキング部会

ワーキング部会開催回数：4回

調査方法：アンケート調査

調査期間 平成20年2月~3月

調査方法 アンケート調査（民生委員による配布・回収）

調査対象者 一般住民（200名配布・回収100%）中学生（69部配布・回収93%）

まとめ

- ・健康づくりに地域の方々が多く参加できる働きかけの必要性
- ・専門の医療機関への距離が遠く、交通費の問題や時間の問題がある反面、近くの診療所が受診しやすく、往診もあり病気の早期発見・対応ができています
- ・介護サービスの認知度が低く利用するサービスも限られているが、本人や家族、地域の力がある

- ・中学生アンケートより、福祉サービスはある程度充実していると思っている生徒が多く、障害者や高齢者の問題に関心な生徒が多く見られた
- ・犯罪が少なく安心な反面、災害への不安を感じている人が多い
- ・地区の重点課題の第1位が雇用対策であった
- ・たくさんの生のニーズをしっかりと情報として蓄積したこと自体に意味があると思います

上県支所ワーキング部会

ワーキング部会開催回数：7回

調査方法：アンケート調査

調査期間 平成20年2月~3月

調査方法 アンケート調査（民生委員による配布・回収）

調査対象者 一般住民（332名配布・回収100%）

まとめ

- ・社協の存在意義や役割、活動内容がよくわからない
- ・支所のボランティアセンターの名称や活動内容がよくわからない
- ・地域住民同士のつながりが希薄になってきている
- ・障がいについての福祉教育の推進が必要である
- ・少子、高齢化や地域の状況変化により福祉ニーズも変化してきている
- ・介護保険事業の推進による在宅福祉サービスの充実

上対馬支所ワーキング部会

ワーキング部会開催回数：3回

調査方法：アンケート調査・住民座談会・居宅介護支援事業所による独自調査

調査期間 平成20年2月~3月

調査方法 アンケート調査（民生委員、高校教諭、介護保険事業所による配布・回収）

調査対象者 一般住民（374名配布・回収100%）高校生（126名配布・回収100%）

上対馬町介護保険認定者（119名）

住民座談会3地区（大浦・芦見・比田勝、56名）

各調査活動に向けて説明会を実施：区長説明会1回・民生委員説明会1回

まとめ

- ・高齢者は一人暮らしをされていることで、病気のこと、話相手がほしいこと、体が不自由になることへの不安などが多くあがっている
- ・障害者の雇用の問題、環境や制度はもとより心のバリアフリーの充実が必要である
- ・少子化の問題、家庭でのしつけの問題
- ・雇用システムを改善する必要がある
- ・心のブランド化を